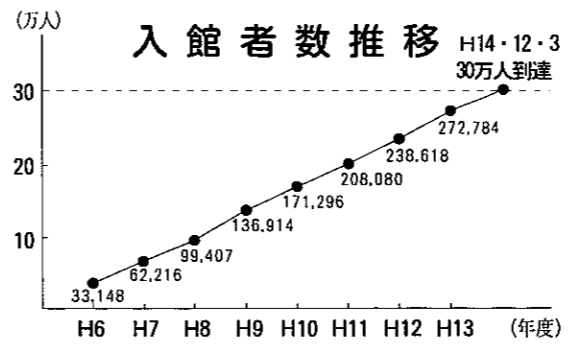
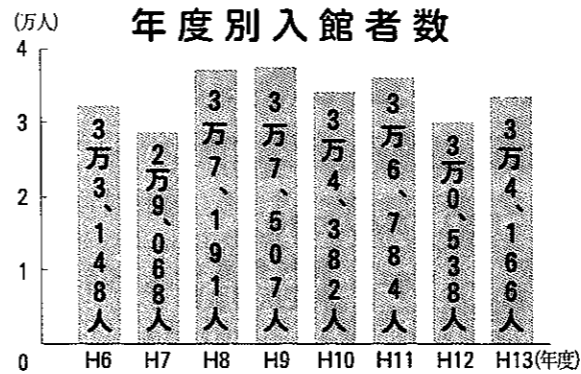




「運っちゅうやつだ」

しろね大風と歴史の館30万人突破

平成六年八月にオープンした、しろね大風と歴史の館の入館者数が、十二月三日に三十万人を突破し、記念イベントが同館で行われました。三十万人目となったのは、長野県からの団体旅行客、佐藤等さん（七十八歳）。佐藤さんには、吉沢市長から花束と和風、そして白根特産のルレクチェが送られました。また団体客全員にも記念品が送られ、思わぬお土産に皆さん喜んでいました。佐藤さんは「何だか知らねえけどそうなっちゃった。運っちゅうやつだな」と得意満面の笑顔でした。同館では平成九年四月に十万人目を、平成十一年十一月に二十万人目を迎えています。



魅力ある商店づくりを

市街地商業者意向調査報告会



十一月二十二日、産業厚生会館で市街地商業者意向調査報告会が行われ、商店主約二十人が参加しました。調査は、市内中心商店街の経営動向や経営者意識、中心市街地の活性化と振興施策の方向性を把握するため、昨年二月に市が実施。調査対象は、白根地区の本町通り、新町通り、中央通り、北部商店街の商店主三百七十七人で、そのうち百六十八人（回収率七七・四％）から回答がありました。調査内容は「売り上げ規模」、「売り上げ状況の変化」、「今後の経営対策」、「商店街活性化に望むこと」など全十六項目。調査結果をみてみると、回答者の約九割が五十歳以上で、商店主の高齢化が進んでいく一方で、後継者の有無については約六四％が「なし」と回答しています。また経営上の問題点では、「売り上げ不振」と「大型店との競合」で全体の約四五％を占めており、商店街の厳しい現状が浮き彫りとなっています。この調査結果の分析を行った中小企業診断士の小松俊樹氏は、これからの商店街について「アーケードや駐車場等のハードをいくら整備しても、これだけではお客さまはなかなか来てくれません。お客さまのニーズに合わせるサービスをしなければ、離れてしまいます」と店側の意識改革を指摘しました。出席した商店主たちは調査結果の資料を見ながら、結果報告を熱心に聞いていました。

白根市の公共交通の在り方について審議

第1回白根市公共交通活性化市民会議



十一月二十八日、市役所で「第1回白根市公共交通活性化市民会議」が開かれました。この市民会議は、学識経験者や公募による市民、バス事業者など二十人の委員で構成。路線バスを中心とした、白根市の公共交通の改善と充実を図るための総合的な指針として「白根市公共交通活性化構想」を策定します。今回は、白根市における利便性の高い公共交通体系の確立に向け、公共交通の現状に対する意見交換など、活発な議論が行われました。

笑顔がいっぱい



しろね健康福祉フェア2002
白根市社会福祉協議会・白根市連合保健会主催の「しろね健康福祉フェア2002」が、十一月二十三日に白根学習館で行われました。食事・運動・休養をテーマに、だれもが楽しめるコーナーが多数設置され、館内は大勢の人でにぎわいました。その中の一つ「遊びの広場」では、親子が歌ったり踊ったり、手作りのおもちゃで遊んだり、広場は笑顔でいっぱい。子どもがすごく喜んで、こういうの、どんどんやってほしい」と、参加していたあるお母さんは、大満足の様子でした。

ひとひとひと
男・女・人
おしゃべりさろん



「目に見えない眼鏡」 掛けていませんか？

市では昨年11月に、男女共同参画についての市民意識調査を行いました。無作為で抽出した2,000人の皆さんに調査票を送り、回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。現在集計作業を進めていますので、結果がまとまり次第、皆さんにお知らせします。

★法や制度の整備は進んでいます

さて、前回まで性別による損得や文化人類学者の調査などを例に、男（女）らしさについて考えてきました。そして生物学的な性別とは別に、社会や文化によって性的な役割意識がつくられていることに気付きました。しかし、「男らしさ」「女らしさ」へのこだわりが、なぜ問題になるのでしょうか。よく耳にするのは「そのどこが悪いのか」「男と女が家庭や社会で役割分担をすることが、なぜ問題視されるのか」「もう女性は十分強くなっているのに、なぜ今更男女平等なのか」というものです。確かに法や制度の整備は進み、女性の社会進出も進みました。女性の管理職や議員の割合も増えてきています。

★あなたにフィルターはありますか？

しかし、ここで考えていただきたいのは「意識」の問題です。例えば同じ能力を持つ男と女を比較した場合、本当に「同じ」と評価されているのでしょうか。性別による役割分担の名の下に押しつけや決め込みがないでしょうか。その人個人としての個性や能力を、知らず知らずのうちに、「性別」というフィルターを付けた色眼鏡で見ていることはないでしょうか。「らしさ」へのこだわりが、このフィルターなのです。性別による損や得は、フィルターを外せばなくなるものがほとんど。社会慣習や教育により、長い歴史的な時間をかけて作り出されたフィルターを取り外すことは、非常に難しいことです。それ以前に、フィルターが存在に気付くこと自体が、もっと難しいことだと言えます。もちろんこれは『男らしさ』『女らしさ』を否定するものではありません。

★新年です。皆さんにとって良い年になりますように

一人ひとりの人間が性別にとらわれずに正しく評価され、能力が発揮できる社会。新しい年が少しでもそういう社会に近づくことができるよう、頑張りたいものです。

「おしゃべりさろん」は白根学習館ホームページでもご覧いただけます
(<http://pc2.gakushyukan-shirone-unet.ocn.ne.jp>)

